

2024年3月12日

「Digi-PoC TOYAMA (デジポックとやま)」実証実験プロジェクト 成果報告会の開催について

NTTコミュニケーションズ株式会社は、2023年5月に富山県から受託したデジタルソリューション推進事業において、「Digi-PoC TOYAMA (デジポックとやま)」実証実験プロジェクト(以下、本プロジェクト)の運営事務局を務めています。

本プロジェクトでは富山県が成長戦略として掲げる県民のウェルビーイングの向上や、「幸せ人口1000万」の実現を図るため、地域課題をデジタルソリューションで解決する事例を創出し、富山県におけるビジネスモデルの構築につなげることをめざしています。

■本プロジェクトの特設サイト

https://digi-poc-toyama.jp/?utm_source=prre2024&utm_medium=HP

本プロジェクトの成果報告会が2024年3月28日に開催されますのでご案内します。

1. 開催概要

開催日時：

3月28日(木) 14:30-17:00

開催場所：

富山県防災危機管理センター 5階研修室 B・C

(所在地：富山市新総曲輪1番7号)

オンライン配信実施 (Microsoft Teams)

オンライン配信ページ：[こちらをクリックしてご参加下さい](#)

※会議ID、PW等はなく、URLのみとなります。

参加費：

無料 (事前申し込み不要)

その他：

- ・ 現地では成果報告会開催後に名刺交換等の交流会を実施します。

NTTコミュニケーションズ株式会社 広報室

NTT Communications Corporation Public Relations Office

〒100-8019 東京都千代田区大手町 2-3-1 大手町プレイスウエストタワー

OTEMACHI PLACE WEST TOWER 2-3-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8019, Japan

Tel (03)6700-4010 International +81 3 6700 4010

2. 各実証実験プロジェクト（9事業）について

<実証実験プロジェクト①>

- ・ テーマ：自治体業務の効率化・働き方改革推進
- ・ 採択事業者：株式会社インテック 行政システム事業本部
- ・ 実証実験の概要：
生成 AI とマルチモーダル AI（複数のデータを総合的に処理）を組み合わせたデータ活用により、業務の効率化や働き方改革を推進

実証実験の背景・目的

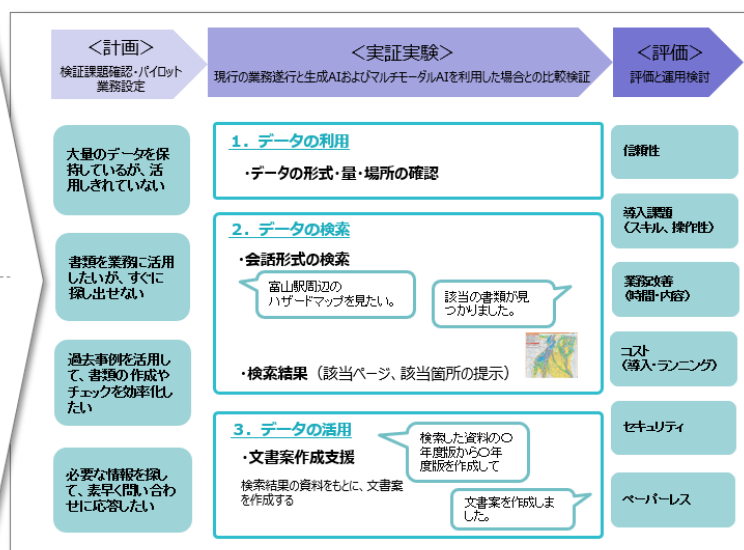
背景・地域課題

- ・ 働き方の多様化
- ・ 労働人口の減少
- ・ 他者への思いやり
- ・ ストレス社会
- ・ 生成AI利用の機運
- ・ 業務効率化の必要

検証目的・狙い

- ・ 生成AIとマルチモーダルAIを利用した業務効率化
- ・ 生産性向上による富山県職員のウェルビーイングの向上

実証実験のイメージ



<実証実験プロジェクト②>

- ・ テーマ：教育の充実
- ・ 採択事業者：三菱総研 DCS 株式会社
- ・ 実証実験の概要：

特別支援学校において、ロボットを活用することにより、コミュニケーションやソーシャルスキルトレーニングの効果的な実施

実証実験の背景・目的

背景・地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある子どもたちの新たなコミュニケーションスキル向上の手法を提供
検証目的・狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキルの効果的なトレーニングを実現 ・ 自立や社会参加への積極的な気持ちを育成

実証実験のイメージ

・ 対象は特別支援学校2校（高等部）を想定 ※ロボットは各校1台

実証実験 1	実証実験 2	実証実験 3
<p>範囲 学校内利用</p> <p>実施内容 NAOを相手として会話 NAO操作者：先生</p>	<p>範囲 学校間交流 ※一般校または特別支援学校間</p> <p>実施内容 遠隔機能を活用 NAOを相手として会話 NAO操作者：遠隔地の生徒</p>	<p>範囲 学校外交流</p> <p>実施内容 NAOはサポート役 対面でのコミュニケーション実施</p>
<p>取得データ</p> <p>アンケート（主観データ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども心の変化（子ども視点） ・ 子ども行動の変化（教員、保護者視点） 		<p>ロボットからの情報収集（客観データ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NAOの視点カメラによる時間計測 ・ 感情分析（表情・音声など）

<実証実験プロジェクト③>

- ・ テーマ：建設業のデジタル化・DX 推進
- ・ 採択事業者：松嶋建設株式会社
- ・ 実証実験の概要：
豪雨災害における被災前後の衛星データを解析。被災箇所の見える化により、災害復旧の迅速化や現場確認・点検業務を効率化

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

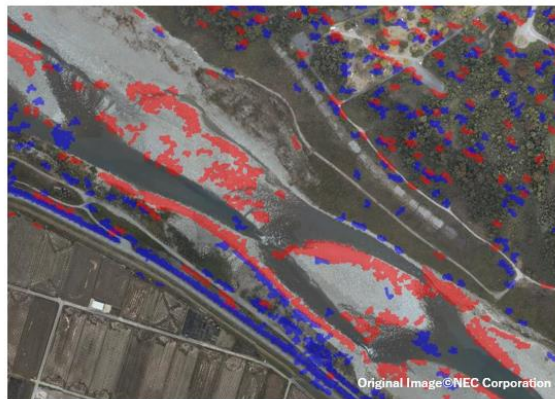
- 立山町 6 月豪雨災害
- ・被災箇所に把握に時間がかかった
- ・ 1 日でも早い復旧を進めたい

検証目的・狙い

- ・ 衛星データでどのような種類の被災箇所を把握できるかを検証
- ・ どの種類の衛星データが災害に適しているかを検証

実証実験のイメージ

WEBアプリにより色で「見える化」

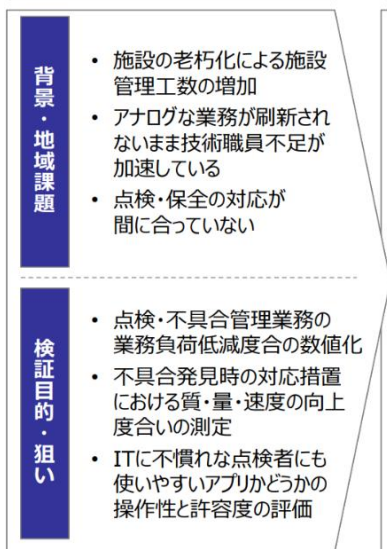


※ASNARO-2衛星画像にもとづき作成(NECネットエスアイ㈱提供)

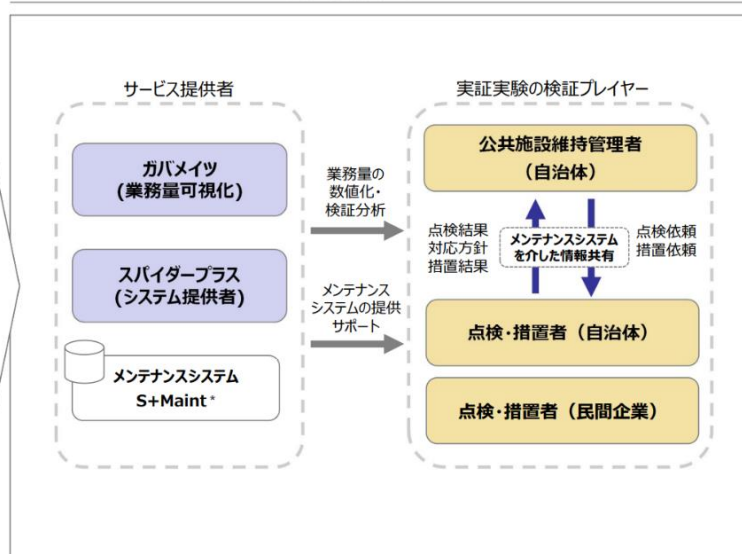
<実証実験プロジェクト④>

- ・ テーマ：建設業のデジタル化・DX 推進
- ・ 採択事業者：スパイダープラス株式会社
- ・ 実証実験の概要：スマホ・タブレットを用いた情報共有・管理システムの構築により、施設の点検保守管理業務を効率化

実証実験の背景・目的



実証実験のイメージ



<実証実験プロジェクト⑥>

- ・ テーマ：製造業のデジタル化・DX 推進
- ・ 採択事業者：株式会社フォーバル
- ・ 実証実験の概要：GX や DX の取組み等を可視化するプラットフォームの運用、GDX アドバイザーによる伴走支援により、中小製造業の付加価値向上

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

- ・ 中小製造業では未だDX経営に取組めていない。
- ・ 取組まない事による社会、経済的なリスクに対応できていない。
- ・ 必要性を感じていても、方法がわからない。
- ・ DX推進する人材の社内確保や育成に苦慮している。

検証目的・狙い

- ・ DX経営に取組む必要性についての理解、浸透ができるか。
- ・ 実証実験するサービスにより、DX環境が向上（機能）するか。
- ・ 実証実験する仕組みの定着
- ・ 狙いとして、当社の事業可能性の検証。

実証実験のイメージ



提供ソリューション名：アイコンサービス

コンサルティング能力

デジタル能力

- ✓生活がデジタルとともにある(=デジタルネイティブ)
- ✓デジタル教育を受けてきた
- ✓最新のデジタルツールに関する情報を持っている

最低限のITの知識、オフィス環境のインフラ、ハードを理解でき、最新のDXの活用事例を把握している。

情報管理能力

- ✓個人情報保護に関する知識を備えている
- ✓経営に必要な情報を理解し整理することができる

取り扱う情報管理を整理でき、その情報を物理的、組織的、人的、技術的の4つの安全措置点からアドバイスが出来る。

中小企業経営能力

- ✓経営方針に対する強い意思があり、実行力がある
- ✓社内資源・市場環境を把握している

経営の基本である5大リソースの可視化：月次でお金の動きや収益が可視化出来、スピード感をもって修正することが出来る。

コンサルティングノウハウ+ツール

会社の課題や伸びしろ、マーケットにおける強み弱みが、可視化経営により明確に。





GDX アドバイザー
アナログインターフェース（専門人材による伴走支援）

↓

中小製造業

<実証実験プロジェクト⑦>

- ・ テーマ：企業の脱炭素経営推進
- ・ 採択事業者：e-dash 株式会社

実証実験の概要：中小企業のCO2排出量を請求書アップロードだけで可視化・削減検討する実証。各社のCO2排出量可視化結果を県が一覧できるツールの富山県向け最適化の実証

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

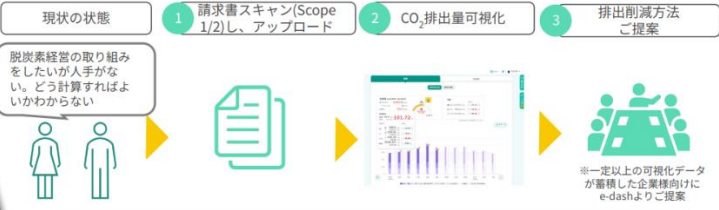
- ①富山県の中小企業
脱炭素経営への着手：人手・知識不足により、自社単独でのCO2排出量の可視化・削減取組の実施が困難である
- ②富山県
県内中小企業の脱炭素経営の支援の強化・効率化：大多数の中小企業のCO2排出量の実態が不明のため、脱炭素化に向けた有効な支援が難しい

検証目的・狙い

- ①富山県の中小企業
可視化でまず着手すべきとされるエネルギー消費由来のCO2排出量について、可視化及び削減検討の実証を実施
- ②富山県
各社のCO2排出量の実態を県が簡単に把握し脱炭素化支援策に適切に反映できる体制を実証し、それを通じて、地域脱炭素化に向けた企業と県の適切な連携体制を検討・検証

実証実験のイメージ

①富山県の中小企業



②富山県



<実証実験プロジェクト⑧>

- ・ テーマ：公共交通の満足度向上
- ・ 採択事業者：株式会社トラフィックブレイン

実証実験の概要：路線バスの遅延を少なくするため、ロケーションデータを解析し、最適なバスダイヤを作成

実証実験の背景・目的

実証実験のイメージ

背景・地域課題

- 遅れがバスの不満1位
- 県内統一バスロケがあるがデータ品質と活用に課題
- 県交通政策においてデータ活用の指針がない

検証目的・狙い

- バスの遅延改善
- それによる利用者の満足度向上
- そのためのバスロケデータ改善とダイヤ改正業務改善
- 交通データ活用の課題整理と計画立案

取組①バス遅延改善

バスロケーションシステムの走行実績データに基づき、遅延が少なく早発も起きづらいダイヤを自動生成し、ダイヤ改善によりバスの満足度向上・利用促進を図る。

取組②交通データ活用検討

公共交通、車、人流等のデータと、GISやBIツール等を駆使した、交通計画と情報提供の方法を提案し、策定中の地域公共交通計画に反映する。

➡ まずは短期で確実に実現可能なバスの遅延改善を行いながら

➡ 多様なデータとシステムを活用し、便利な公共交通の実現に貢献する

<実証実験プロジェクト⑨>

- ・ テーマ：観光地の利便性向上
- ・ 採択事業者：株式会社 センサーズ・アンド・ワークス

実証実験の概要：立山駅周辺の駐車場内に超音波センサとカメラを設置し、車両カウントを行う。
ウェブサイトや現地サイネージによる駐車誘導により業務負担を軽減

実証実験の背景・目的

背景・地域課題

- ・立山駅まで自家用車で訪れた観光客の駐車場への誘導業務がある
- ・スムーズな誘導のためには、多くのスタッフの運用が必要となり、業務負担が大きい。

検証目的・狙い

- ・デジタルツール導入による業務負担軽減が目的
- ・スムーズな駐車誘導をするための駐車場利用状況を外部発信する手段の効果検証

実証実験のイメージ

